

サミット、伝説のスピーチから16年——。
セヴァン・カリス＝スズキ
世界を変える力は、地域と市民の中にある。



洞爺湖サミットで何ができるのか

「どうやって直すのか分からないものを、壊し続けるのはもうやめてください——」。1992年のリオサミットで、各国の指導者たちにむかって伝説のスピーチをした、セヴァン・カリス＝スズキさん、当時12歳。あれから16年、環境問題の啓発と行動を促すために世界を渡り歩き、活動してきたセヴァンさんは、今の環境の状況をどのように見ているのか。今年開催される洞爺湖サミットに、何を期待しているのだろうか。

「あなたがた大人にも知ってほしいんです。あなたがたも、よい解決法なんて持っていないってことを。オゾン層に開いた穴をどうやって塞ぐのか、死んだ川にどうやってサケを呼びもどすのか、絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか、今や砂漠となってしまった場所にどうやって森をよみがえらせるのか。あなたがたは知らないでしょう。どうやって直すのか分からないものを、壊し続けるのはもうやめてください」

「2日前、ここブラジルでストリートチルドレンと出会い、私たちはショックを受けました。ひとりの子どもが私たちにこう言いました。「僕が金持ちだったら、家のない子すべてに、食べ物と着る物、薬、住む場所、優しさと愛情をあげるのに」……。何もないひとりの子どもが、分かちあうことを考えているというのに、すべてを持っている私たちがこんなに欲が深いのはなぜなのでしょう?」

「学校や幼稚園でさえ、あなたがた大人は私たちに、世の中でどう振る舞うかを教えてくれます。争いをしない事、話し合いで解決する事、他人を尊重する事、散らかしたら自分で片付ける事、他の生き物をむやみに傷つけない事、分かちあう事、そして欲張らない事——。ならばなぜ、あなたがたは、私たちにすると言うことをしているんですか?」

「なぜあなたがたがこうした会議に出席しているのか、どうか忘れないでください。一体誰のためにやっているのか。それはあなたがたの子ども、つまり私たちのためです。あなたがたはこの会議で、私たちがどんな世界に育ち、生きていくのかを決めているんです」

『あなたが世界を変える日』(セヴァン・カリス＝スズキ著、ナマケモノ倶楽部 編・訳、学陽書房)より編集部まとめ(プレゼント 298ページ)



各国のリーダーたちの前でスピーチをする、当時12歳のセヴァンさん(提供:ナマケモノ倶楽部)